



子育てのおもいで



我が家には、二人の娘がいます。高校生と小学生です。

私は日頃から、子ども達と会話をすることを大切にしたいと思っています。私自身が子どもの頃、よく親と会話をし、何でも話せる親子だったからかもしれません。

上の子は、小さい頃から家でも話をしない子で、学校での出来事など、私が「今日は学校どうだった？」と聞かないと話をしてくれませんでした。中学生の頃は、私が話かけると嫌な顔をしたり、「勉強してるんだから静かにして！」などと言われたりもしました。

下の子は、私が聞かなくても学校でお友達と遊んだこと、「今日の給食は〇〇が出て美味しかったよ～」など色々なことを話してくれます。

今では上の子も、私から話しかけなくても自分から話をしてくれたり、時には、私の冗談にも付き合ってくれたりもします。

仕事から帰り、子ども達と会話をし、楽しい時間を過ごすと、それだけで一日の疲れを忘れてしまいます。

これからも子ども達との会話、かけがえのない時間を大切に過ごしていけたらと思っています。
(文：明戸小学校保護者)

↓家庭教育アドバイザーからのコメント

子どもとの会話を大切にされていること、とても素晴らしいことです。返事をしてくれなくても声掛けすることで、親はいつも自分のことを「見守ってくれている」「思ってくれている」ということは子どもに伝わっています。お子さんと円滑にコミュニケーションを図り、情緒的な結び付きを強くしていくには、受け身ではなく、親の側からの働きかけがとても重要です。これからも親子の会話を大切にしてください。



家庭教育アドバイザー

子育てのおもいで大募集！

深谷市では、「子育てのおもいで」に関するお便りを募集します。
ご応募いただいたかたの中から、当選されたかたには、地域通貨ネギーを1,000円分プレゼントいたします。皆様のご応募お待ちしております。

※子育てにおける思い出を自由にお書きください。

文字数は、200字以上240字以内とします。

※応募者の中から当選された1名様に地域通貨1,000ネギーをプレゼントします。

※当選者の記事は、今後の家庭教育だより「まごころ」に掲載させていただく予定です。

※応募方法については、右のQRコードから応募もしくは、郵送にてご応募ください。

また、郵送で応募されるかたは、子育てにおける思い出を原稿用紙に記述し、郵便番号、住所、氏名、連絡先を明記のうえ、以下へ郵送ください。(令和5年11月30日(木)消印有効)。

深谷市教育委員会生涯学習スポーツ振興課「まごころ」担当
TEL 572-9581 アドレス syogai@city.fukaya.saitama.jp



家庭教育だより まごころ

編集・発行 深谷市教育委員会 生涯学習スポーツ振興課

家庭教育だより「まごころ」編集委員会

〒366-8501 深谷市仲町 11-1 TEL048-572-9581



No.52

令和5年11月号

今号は、主にコミュニケーションについての特集です。SNSが浸透している社会において、いま一度、家庭内での親子のコミュニケーションについて振り返ってみましょう。



子供たちのいちばんの願いは？



子供たちへの調査で「あなたの家庭にもっと望むことがありますか？」と聞いたところ、どの年代においても、いちばん多い答えが「家族のみんなが楽しく過ごす」でした。当たり前ともいえませんが、そんな子供たちの願いを大人はしっかりと受け止めたいものです。

最近、個々にスマートフォンを見つめる時間が増え、家族内でのコミュニケーションをうまく取ることができていない状況のご家庭も多いようです。必要な物を与えていけば子供は育つという風潮を聞くことがありますが、いまや子供たちが望む楽しい家庭は、家族が意識を持って協力し合わなければなかなか成就することができません。

コミュニケーションとは、人と人が言葉や身振り、表情、文字等を使って自分の気持ちや情報を伝え合うものです。子供は伝え合うという双方向のかかわりを通して、親に存在を認められ自己肯定感が生まれます。自分が認められることで、他者のことも尊重できるようになります。家庭で身に付けたコミュニケーションの力が将来、社会生活の中で生きていきます。それは、親としての生き甲斐にもつながっていきます。子供のために、自分のために、もう一度家庭を見つめ直してみましょう。

市内には、ご家庭での皆さんの頑張りを支え、応援する組織がたくさんあります。ひとりで悩みを抱え込まず、気軽に活用してみましょう。

本号をお読みにになり、家庭内のコミュニケーションがより密になれば幸いです。

※参考 家庭教育手帳(文部科学省)

(文：深谷市社会教育指導員)



ふっかちゃんと学ぼう♪「親の学習」動画紹介

深谷市教育委員会では、家庭の教育力向上に向けた支援事業の1つとして、「親の学習」を推進しています。親の学習は、親が親として育ち、家庭の教育力向上や親同士の交流促進を目的とした活動です。親の学習は講師(埼玉県家庭教育アドバイザー)からの一方的な講義ではなく、参加者が5～6人グループを組んで意見交換をしながら、交流を深める参加型の学習を基本としています。

同じ年代の子供を持つ保護者同士が、参加を契機に相談し合える関係になれば、たいへん心強く子育てに取り組んでいけるものと思います。

この度、「親の学習講座」に、より多くのかたに参加していただき、家庭の教育力が一層充実することを旨として、啓発動画を作成しました。

ぜひ、QRから動画をご覧いただき参考にしてください。

※動画にはアドバイザーさん、ふっかちゃんも登場します！





コミュニケーションをたくさん取ろう！

「人間形成の基礎」が作られる重要な時期と言われる幼児期。この時期に育みたい能力が「コミュニケーション能力」です。コミュニケーションとは、「意志や感情などを伝え合うこと」であり、大切なのは「伝え合う」です。

幼児期になると、言葉のやりとりがたくさん増えてきます。コミュニケーションの基本と言われる挨拶。この毎日の積み重ねがとても大切です。また、相手の話を聞くことも大切になります。自分の思いを聞いてもらう体験を重ねることで、相手の意見を聞き、自分の中で考えてから意見を言う、というやりとりができるようになっていきます。

幼稚園では、お友達や教師との関わりの中で、たくさんのコミュニケーションを取っています。なかなか話すことができなかった子が、集団生活の中で言葉を獲得していきながら自分からお友達や教師に話すことができていく姿が見られます。このような体験をたくさん積み上げています。

また、言葉以外のコミュニケーションでは、子供とのふれあいも良い方法です。ふれあいによって伝わる愛情は、子供の心にとっても良い影響を与えます。例えば、絵本の読み聞かせです。子供たちへの多大な効果があるとされ、想像力や感性が育ち語彙が増えるなど、脳の発達にもつながるメリットもあります。習慣化することで、子供とのコミュニケーションがさらに密になり、子供たちの情緒安定にも繋がります。絵本の読み聞かせの際に、ふれあいながら読んだり、読んだ後お話をしたりするなど行っていくといいですね。

ご家庭でも、コミュニケーションをたくさん積み重ねてくださいね！

（文：市内幼稚園教務）



【わが校自慢】 深谷西小学校

～元気いっぱい、夢いっぱい、笑顔とあいさつあふれる深西小～

保護者の皆様、地域の方々からのご協力と手厚いサポートにより、子供たちが「元気」に学校に通い、「真剣」に学び、「笑顔」に遊ぶという日常が深谷西小学校にも戻ってまいりました。

アフターコロナの世界において、子供たちと、社会の変化をしっかりと見つめ、今の時代に求められる力を育成するとともに、多様化する教育的ニーズにも適切に対応してまいります。

教職員、保護者、地域とのコミュニケーションを大切に、子供たちを支援していく「チーム深西小」が本校の自慢です。



あいさつ運動
（健全育成会）



ソーラン節
（外部指導者）



親子ふれあい奉仕作業
（PTA 活動）



情報交換会
（学校運営協議会）

自分の気持ちを上手に伝え、相手の気持ちを理解するには

コミュニケーションの本質は、自分とその相手とが、その場での情報と気持ちを共有することと言われています。お子さんは、自分の気持ちを自分の言葉で相手に伝えられますか？

私は、日頃子供たちと接する中で、子供たちと同じ目線で会話することや、子供たちが自分の言葉で自分の様子を話せるよう、すぐに返事が来なくても、子供からの言葉を待つように心がけています。

＜ コミュニケーションに慣れるためのポイント ＞

□「おはよう」「いただきます」「行ってきます」などの何気ない挨拶を、

家族や友達に自分から発信していますか？

→ 会話のやり取りに慣れることができます。

□皆さんのご家庭では、家族団らんの時間を持つよう心がけていますか？

→ 社会でのコミュニケーションが上手になります。

□「話す」ことよりも「聴く」ことを心がけていますか？

→ 相手の立場に立ってペースを合わせることで「共感力」が高まったり、相手も「わかってもらえている」という気持ちを感じやすくなったりします。



自分の気持ちを言葉にのせ、相手と気持ちの通じ合えるコミュニケーションができるとお互いにうれしいですね。

（文：市内小学校養護教諭）



親子でクッキング！

ふっかちゃんの絆やきとり

深谷市は、岩手県田野畑村と友好都市協定を結んでいます。これは、深谷市出身の鎌倉武士・畠山重忠公が愛馬と鎧を埋めたとされる「畠山神社」が田野畑村にあるからです。

平成 23 年の東日本大震災が発生した際には、深谷市の子供達からふっかちゃんのぬいぐるみと自分達が育てた長ねぎを送りました。その長ねぎを使い、給食としてふるまわれたのが「ふっかちゃんの絆やきとり」です。

◇材料（4人分）◇

鶏もも角切り 100g
鶏レバー角切り 60g
しょうが 7.5g
片栗粉 20g
長ねぎ 70g
揚げ油
上白糖 大さじ 1.5
しょうゆ 大さじ 1
みりん 小さじ 1
水 小さじ 4

◇作り方◇

- ① ねぎはよく洗って、2cm 幅のぶつ切りにする。
- ② しょうがは皮をむいてすりおろす。
（おろししょうがを使用してもよい）
- ③ 鶏レバーはよく洗って血抜きをし、茹でておく。
- ④ 鶏もも肉と③の鶏レバーに、②のしょうがで下味をつける。
- ⑤ 180℃に熱した油で、①のねぎを素揚げする。
- ⑥ ④に片栗粉をまぶして、油で揚げる。
- ⑦ 上白糖、しょうゆ、みりん、水を煮立ててタレを作る。
- ⑧ ⑤と⑥に、⑦のタレをからめて出来上がり。



誰かと食事を共にすることを「共食」といいます。食事を共にすることでコミュニケーションが図られ、お互いの心や体の調子を知ることができます。食を通じたコミュニケーションは食の楽しさを実感させて、心の豊かさをもたらすことに繋がります。家族や友達と食事を一緒にする時間を増やしましょう。

（文：市内小学校栄養教諭）